

Physical Exercise Structure Model for Blood Glucose Control in Male Type II Diabetes Patients

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/46900

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 28 年 2 月 22 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号

1027022001

氏 名

浅田 優也

論文審査員

主 査 (教授)

須釜 淳子

印

副 査 (教授)

稲垣美智子

印

副 査 (教授)

表 志津子

印

論文題名 男性2型糖尿病患者の血糖コントロールにつながる運動実施構造モデルの作成
Physical Exercise Structure Model for Blood Glucose Control in Male Type
II Diabetes Patients

論文審査結果

【論文内容の要旨】

本研究は、自身が行った先行研究において男性 2 型糖尿病患者の運動実施は女性と異なり血糖コントロールにつながらないことを明らかにしたことを受けて行った。既存研究では、糖尿病患者の運動実施の有無に関与する因子の研究は見られるが、血糖コントロールに関与する運動実施の因子を探索した研究や性別を検討した研究はない。そこで本研究目的は、「糖尿病である体の認識」を因子として特定し、その因子を投入した運動実施モデルを作成することである。対象は 40～70 歳の外来通院している男性 2 型糖尿病患者 137 名であった。方法は 2 段階をとった。第 1 段階では「糖尿病である体の認識」を問う質問紙を作成するために因子探索的因子分析（一般化された最小 2 乗法・プロマックス法）を用いて潜在因子を特定し、質問紙としての妥当性を確認した。その後、第 2 段階では、構造方程式モデリングの方法（SEM）を用いて、第 1 段階の潜在因子投入した「男性 2 型血糖コントロールに結びつく運動実施モデル」を探索し作成した。

結果、「糖尿病の体の認識」を問う質問紙は 18 項目からなる質問紙が作成された。因子は 5 因子であり、累積寄与率は 59.6%、各因子におけるクロンバック α 係数は 0.812 であり、妥当性のある質問紙ができた。そして、5 因子のなかの 2 つの因子「筋肉のある体つき認識」と「負担をかけることのできる体認識」を投入した「男性 2 型血糖コントロールに結びつく運動実施モデル」が、モデルとしての適合度の基準を満たしたモデルとして採択された。適合度は、 χ^2 乗値 = 171.232、GFI = .882、AGFI = .847、CFI = .938、RMSEA = .047 であった。

【審査結果の要旨】

糖尿病患者の運動療法は治療の 3 本柱の中で最も実施度が低いとされてきた。本研究はこれまでに運動療法の実施度の低さの原因を身体能力、体組成などを系統的研究の一環であり、運動実施の背景にある男性特有の“糖尿病である体の認識”に着眼して、その認識を示す質問紙を作成し、さらにその因子を投入した血糖コントロールに結びつく運動実施モデルを示すことができた。本研究結果は糖尿病医療における新たな運動療法指導方法の開発につながる研究として高く評価できる。公開審査における質疑および討論は論理的かつ適切であった。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。